



今月の写真:「三条の滝」(檜枝岐村)

透きとおる青い空、濃緑の山々。これからが南会津の夏本番です。

これは檜枝岐村4大名瀑の一つ、「三条の滝」。尾瀬を源流とする只見川の最上流部に位置し、新潟県との県境付近にあります。一気に落ちこむ様子は、壮大です。

今月の内容:

- 今月のトピックス
 - ・福島県農業賞受賞おめでとうございます!
 - ・南会津地方グリーン・ツーリズム推進会議が開催されました!! 他
- 水田農業改革ミニニュース(第2回)
大豆の生産は今!
- 南会津のこれが食べたい!!
「山人(やもど)料理」 檜枝岐村
- 南会津の名水の話
「大倉崖下の清水」 只見町
- 農林事務所からお知らせ

平成17年7月11日発行 福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

福島県農業賞受賞

おめでとうございます!



佐藤知事を囲んでの記念撮影
(むかって左 菊地克明さん 右 弥生さん)

第46回福島県農業賞表彰式が、6月21日に福島市の杉妻会館において、開催されました。

農業賞は、県内の農業分野で最も権威のある賞で、農業経営改善部門、集団活動部門、新規就農部門があります。南会津農林事務所管内からは、新規就農部門で南郷村でトマト栽培をされている菊地克明・弥生さん夫妻が、表彰されました。

菊地夫妻は、平成13年度に南郷村へ移住され、1年間のトマト栽培研修を経て平成14年度からトマトの栽

培を始められました。研修期間中から南郷トマト研究部に所属し、自己研鑽に励むとともに、村の消防団にも所属して積極的に地域との交流を深めておられました。

トマト栽培においては、「県知事賞・農協組合長賞(南郷トマト生産組合における最上位の賞)」を、平成15年度、平成16年度と2年連続して受賞し、トマト名人位を授与されるなど輝かしい実績を上げておられます。

今回の受賞を契機に地域農業のリーダーとして、ますます活躍されることを祈念いたします。

(農業普及部)

南会津地方グリーン・ツーリズム推進会議が開催されました!!

去る6月3日に、平成17年度南会津地方グリーン・ツーリズム推進会議が開催されました。本会議は、



南会津地方の広域的連携によるグリーン・ツーリズムの推進を図ることを目的に、平成7年度から各町村(各町村グリーン・ツーリズム推進協議会)や民間団体等を会員として構成し(会長:JA会津みなみ星高代表理事専務)、

(2ページに続く)

(1ページから続く)

南会津のグリーン・ツーリズムの啓発活動や、人材育成、PR活動を行っています。

平成16年度の主な活動内容としては3点で、町村の枠を越えた関係者の連携をさらに強化したシステムづくりに取組んだことや、広域に連携した体制によりグリーン・ツーリズムモニターツアーを実施したこと、そして新たなグリーン・ツーリズムガイドブック等の作成や東京においてセールス活動を行うなど、グリーン・ツーリズムに関する情報の発信を行いました。

平成17年度は、南会津地方振興局と南会津農林事務所とが共催で行う「南会津ツーリズム学校(仮称)」に参画して人材育成に力を入れた活動を行うことや、商品としてのツアービジネスシステムを確立するためのモニターツアーを行うことなどが活動計画とされました。

本推進会議を契機として、ますます各町村や民間団体等の連携が密となり、南会津地方のグリーン・ツーリズムが発展することが望めます。

(地域農林企画室)

皆さんの集落営農を支援します!!

去る6月13日、田島合同庁舎において、「南会津地域集落営農推進協議会」を開催しました。本協議会は、

集落の合意のもとに明確化された担い手を中心として、集落農業者全員が参加できる集落営農を推進するため



に設置されたものであり、各町村、農業委員会、会津みなみ農業協同組合、南会津農林事務所で構成されています。

当日は、①集落営農の必要性、②集落営農の推進体制、③集落営農の推進方法と今後のスケジュールについて協議をし、関係機関・団体の認識統一と推進方向等の合意が図られました。

また、関係機関・団体の実務担当者で構成する「南会津地域集落営農推進担当者会議」が5月30日に開催され、①集落営農の推進について、②町村・JAの集落営農の推進状況及び計画について、③集落営農区分調査と当面のスケジュール等について検討を行いました。

現在、町村ごとに町村・JA・農林事務所の職員がチームを組んで、集落営農の実態調査に取り組んでいます。

(農業普及部)



自然に親しみ、心を育む

ファミリー緑の教室を開催!!

第19回「ファミリー緑の教室」が、6月25日(土)に、田島町荒海の御蔵入の里「会津山村道場」において、南会津地方緑化推進委員会及び田島町緑化推進委員会主催により開催されました。

好天に恵まれた当日は、南会津郡の各町村から親子を中心に約40名の参加者が集まりました。



午前中の自然観察会では、4つの班に分かれ、各班毎に道場内の森林を散策しながら、植物、動物、昆虫、野鳥など様々なものについて観察が行われ、各班の班長であるもりの案内人の方の丁寧な説明に皆さん熱心に聞き入っていました。また、当日はサルや熊の食痕や糞、熊のマーキング痕といった、南会津ならではのものを観察することができ、皆さん興味深そうに見入っていました。

午後の木工教室では、木の車「ウッドカー」作りが行われ、参加者はそれぞれ、思い思いに、自分の気に入った形や色をした車を製作しました。一見、簡単そうに見える作業でしたが、実際に作ってみると、車をまっすぐに走らせることが思いのほか難しく、子供達以上に大人達も夢中になって製作に取り組んでいたようでした。最後に、用意した専用のスロープで、自分達が製作した車を使っての「ウッドカーレース大会」が行われ、予選、決勝と激しいレースが繰り広げられました。なかには着順判定員泣かせの微妙なレースもありましたが、和気あいあいと



したなかでレース大会は終了。参加した子供達全員にはノートや折り紙の参加賞が配られたほか、1位から5位まで入賞した子供達には、その他にも素敵な賞品

が贈呈されました。

以上のように、参加された全てのみなさんが、自然・緑とふれあい、木に親しんで、その重要性和大切さを学びながら、楽しい時間を過ごされた様子でした。なお、来年度は伊南村での開催を予定しています。

(森林林業部)

大豆の生産は今!

水田農業改革推進本部

大豆は水田農業改革を進める上で重要な作物であり、南会津管内の栽培面積は139ha(統計面積 平成15年)もありますが、換金作物としては極めて僅かであります。また、自家採種が多く、機械化体系もほとんど無い状態です。

しかし、この中でも田島町川島地区の川島アグリーズ(代表:室井和之さん)や南郷村の五十嵐公良さん、伊南村大桃地区の会津高原高畑味噌醸造組合等で機械施設の導入等を図りながら、大豆生産に積極的に取り組んでこられました。

また、昨年から地元大豆を用いた豆腐加工にも関心が高まり、安定的に大豆を供給できる体制の確立が求められており、農林事務所では大豆の研修会を数回に渡り実施してきたところです。

これらのことがあってか、平成17年度には新たな生産者が誕生しました。

下郷町の室井利夫さんです。まだ、始まりの一步ですが意欲満々。この秋には、下郷町産の豆腐に変身が期待されています。

↓南郷村和泉田地区での大豆播種



↑下郷町十文字地区での「ごんべえ」による大豆播種

南会津のこれが食べたい!!

山人(やも一ど)料理 (檜枝岐村)

(檜枝岐村産業建設課)

檜枝岐村は福島県の西南端に位置し、東北最高峰の「燧ヶ岳」等2,000m級の山々に囲まれ、村中心部の標高は939m、村全体面積の98%が山林という峡谷型山村で、平均気温 9℃、平均積雪が2m近い県下有数の豪雪地帯です。高冷地ということもあって米が実らず、村でとれる蕎麦、野菜、山菜、きのこ、岩魚等で、山人(やも一ど)達が数々の工夫を加えた「山人料理」が誕生しました。つなぎ粉を一切使わず厚さ3mm程度にのぼし十数枚を重ねて、生地を裁つように切る「裁ちそば」は、村を代表する伝統料理として知られていますが、今回は「山人料理」の一部を紹介します。



「はっとう」

- ①「はっとう」・・・そば粉ともち米粉を同量混ぜ合わせて熱湯を入れてこねて、伸ばし、菱形に切って茹でる。茹であがったものにエゴマを擦り砂糖と合わせたものをまぶして食べる。ほんのり甘くモチモチした口触りで、昔あまりの美味しさに村人が食べることを禁止されたこと「ご法度」から呼び名がついた。
- ②「つめっこ」・・・「そばすいとん」のことで、山菜やきのこ、鳥肉などを具とした味噌汁の中に、そばをちぎって入れ込んだもの。ちぎることを「ツメール」ということから呼び名がついた。
- ③「ぼんでいもち」・・・硬めに炊いたうるち米を白でついたもの。イワナ味噌、油味噌、熊の油等をつけて食べる。



「つめっこ」



「ぼんでいもち」

これらの料理は、村内の食堂・旅館・民宿(要予約)の他、11月に開催されている「新そば祭り」(一定の料金で“食べ放題”)で味わうことができます。

南会津の名水の話

大倉崖下の清水 (只見町)

只見町産業振興課農林班

只見町銘水十選の一つ。国道289号線を只見町小林から只見へ向うと、大倉地区の「会津只見考古館」を過ぎ、「季の郷・湯ら里」の手前1km程に道路右側の直下に湧き出る清水。道路脇に目印の看板がありません。

「古より沼田街道を往来する旅人や近辺に^{そまひと} 農夫もこの清水^{ひとすく}に一掬いの冷水に渴きを癒した。清冽にして飄々とした風味は、養老の滝の水^{たと}喩えられ、飲む人の六腑沁む木陰の涼風に暫しの憩いは蘇生の思いに



至る^い謂う。以来人々に賞^{しょうかん}翫され、未だ尽きることなくコンコンと湧出で天与の良水となりと、其の名も高き大倉崖下の清水はこの下にあり」と。

比良林のサラサドウダン（県指定天然記念物）は、この清水の高台にあります。

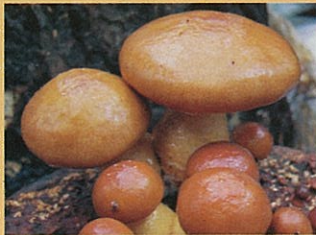
農林事務所からお知らせ

大型なめこ ネーミング(愛称)募集

下郷町林業振興協議会では、県で開発した大型なめこ(登録品名:福島N2号)の栽培に取り組んでいます。今年のおの出荷に向けて現在、ネーミング(愛称)の募集をしています。なお、このナメコの特徴は次のとおりです。

◇従来のナメコに比べ、傘が大きく(500円玉程度)、足が太い。足まで美味しく食べることができる。

◇カットやスライスして料理に使えるため、従来のなめこ汁やなめこおろしだけでなく、炒め物、焼き物、パスタ、スープ等の食材として料理の幅が広がります。



賞品:採用になった方1名には1万円、次点の方には5千円の賞金を進呈します。また、それぞれに副賞として季節のきのこ(ナメコ、マイタケ、ハタケシメジ等)をお送りします。なお、選考の結果は、本人に連絡のうえ賞品を送ります。

応募締切:平成17年 8月10日(水)

応募方法:官製ハガキまたはFAXで応募願います。名称と理由、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号を記入してください。

注意事項:応募作品は返却いたしません。ネーミング決定にあたっては、採用作品を補作する場合があります。採用作品の法律上の一切の権利は下郷町林業振興協議会に帰属します。応募に関する個人情報、賞品の発送目的以外に利用することはありません。

(森林林業部)



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/nourin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。

R100  PRINTED WITH SOYINK™
古紙配合率100%再生紙を使用しています。
この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆)インキを使用しています。